

科目区分	専門分野	授業科目	小児看護援助論
講師名	平田 洋子(20) 原田 桃子(10)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(30時間)	開講年次	2年次 第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ	小児看護学概論の講義内容を活用しながら、各期の子どもの特徴を踏まえた看護の工夫、子どもの尊厳を行動にするとどのような関わりをすることかを考えながら学んでいきましょう。		
目的：子どもと家族の看護を理解する 目標：1. 疾病の経過と発達段階をふまえた看護を理解する 2. 小児看護特有の看護援助を理解する			
回	授 業 内 容		
1	1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護		
2～3	1. 子どもにおける疾病の経過と看護		
4	1. 手術を受ける子どもと家族の看護		
5	1. 子どもに出現しやすい症状と看護		
6	1. 子どもの成長発達に応じた日常生活の援助技術 1) コミュニケーション 2) 遊び 3) フィジカルアセスメント 4) 検査(採尿)、処置(腰椎穿刺)		
7～8	1. 健康障害に応じた経過と看護 1) 慢性期(継続看護・在宅看護) 2) 急性期・周手術期 3) 終末期 4) 災害時		
9～10 【演習】	(小児看護技術) 1. 外来受診や入院を必要とする小児の看護 1) 外来における子どもと家族への看護 ①緊急度の把握・トリアージ ②病気に対する子どもの理解と説明 ③プリパレーション ④健康診断・育児相談 2) 感染症の対応と免疫不全(低下)の対応 ①隔離の目的・方法 ②隔離の身体的・心理的影響 2. 子どもの入院がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護 1) 小児の入院環境 2) 活動制限が必要な子どもと家族の看護		
11～14 【演習】	1. 子ども(家族含)の疾病の経過と発達段階をふまえた看護の考え方と看護過程 疾患名：川崎病(幼児期) 健康段階：急性期～回復期 薬物療法(輸液管理・内服管理含)		
15	終了試験		
授業方法	講義・演習		
評価方法	筆記試験 100点満点 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (参考資料) 医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論		
備考	既習関連科目：小児看護学概論、生体機能管理技術		